

川の観察での注意

事故防止のために

関連単元

5. 流れる水のはたらき

1

事前の準備

- 事前に調査して、安全で目的にあった川を選ぶ。
 - 児童を川に入れる場合は、対岸に渡れるような浅い川を選ぶ。
- 観察する地点の安全性をいろいろな観点で調べておく。
 - 川に入って、流れが速くなっているところや急に深くなっているところがないか調べる。
 - 川の流れの速さは、木の葉や小さな木ぎれなどを流すことでも確かめられる。
 - がけになっているところがないか調べる。
 - 危険な動物がいないか、危険な植物が生えてないかを調べる。
- 安全に活動できる服装…長そでのシャツ、長ズボン、底にでこぼこのあるすべりにくい靴、帽子（直射日光や紫外線を防ぐ意味からも、つばの広いものが望ましい）
 - サンダルは脱げやすく、滑りやすいのでよくない。
- 持ち物は、必要最小限なものに絞る。

<子供の持ち物>

- ・川が広域に見られる地図
- ・観察カード
- ・筆記用具
- ・タオル
- ・替えの靴、替えの服
- ・水筒

<教師の持ち物>

- ・救急箱（袋）
- ・カメラ
- ・ビニール袋
- ・携帯電話
- ・双眼鏡
- ・水筒

・トイレの場所の確認

- ⇒ 活動する場所の近くにトイレや直射日光を避けられる日陰があるかどうか確かめておく。

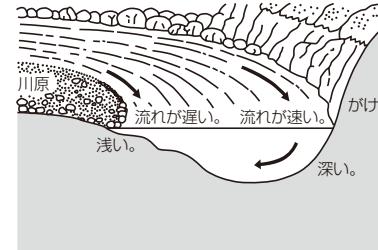
・近くの病院や診療所の確認

- ⇒ もし、児童がけがをした場合、すぐに医師の診察を受けられるように、最寄りの病院や診療所の場所、電話番号を調べておく。

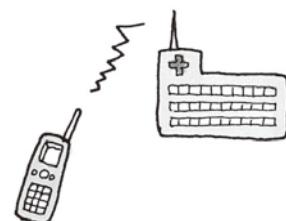
2

出かけるときの注意

- 水量の変化に注意する。
 - 雨の後は増水して流れが速くなっている。
 - ダムの放流で増水して流れが急に速くなることがある。
 - ゲリラ豪雨で水位が急増することもあるので気象情報には気をつけておく。上流地域での降雨で急に増水して流れが速くなることがある。避難場所も確認しておくこと。
- 約束を決めておく。
 - 石を投げない。
 - 裸足になって川原を歩かない。
 - 水のかけ合いをしない。
 - 勝手に川の中に入らない。
 - 深みに近づかない。
 - 川の中は滑りやすいので、水の中では慎重に行動する。
 - 環境保護のため、ごみなどを捨てない。
 - 危険な動植物に気をつける。



5年

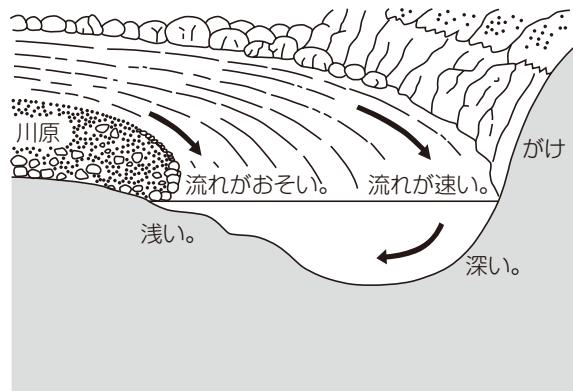


川の観察での注意

● 安全に観察するために

1 川のことを知っておこう

- ・水の流れは、川原に近いほうがゆるやかである。
- ・岩などがもろくなっているがけは、土や石が落ちてくるので危険である。
- ・川には急に深くなっているところがあるのを気を付ける



2 持ち物と服そそう

〈持ち物〉

※用意ができたら□にチェックしよう。

〈服そそう〉

- ・ぼうし (つばの広いものがよい)
- ・長そでのシャツ
- ・長ズボン (水に入るときは半ズボンでもよい)
- ・すべりにくいくつ (サンダルはぬげやすく、すべりやすいのでよくない)



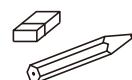
□地図



□観察ノート



□筆記用具



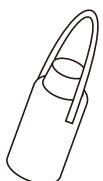
□タオル



□かえのくつ



□水とう



□かえの服



3 決めた約束を守ろう

- ・石を投げない。
- ・はだしになって川原を歩かない。
- ・水のかけ合いをしない。
- ・勝手に川に入らない。
- ・深みに近づかない。
- ・川の中に入ったときは、すべりやすいので、しんちように動く。
- ・ごみを捨てない。
- ・毒ヘビなどに気をつける。